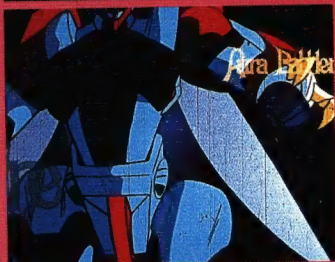
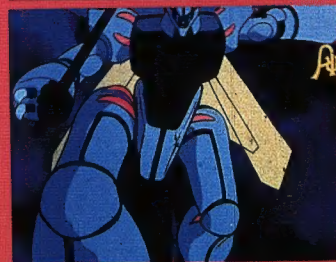
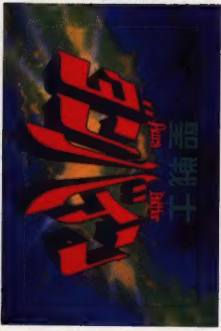
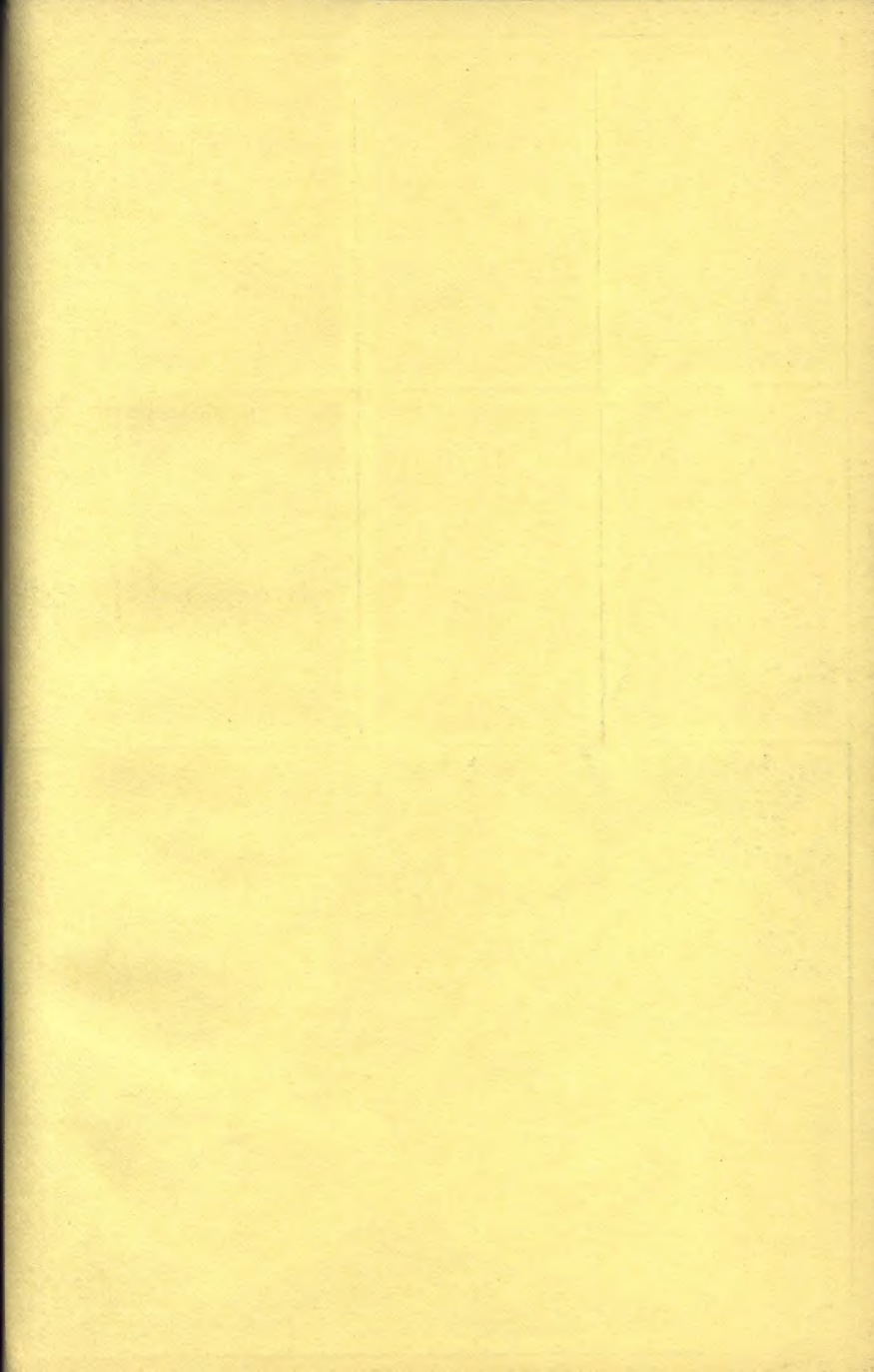
AURA BUTTLER
Dunbine NOTE

DUNBINE & BILLBINE
EYE CATCH COLLECTION

Dunbine SEAL COLLECTION

聖戦士
Aura Battler
ダンバイン

Buchi

イラスト・出渕 裕

CHARACTERS PROFILE

Dunbine

〝バイストン・ウェルの物語を憶えているものは幸せである。心豊かであろうから…。私たちは、その記憶を印されてこの地上に生まれたにもかかわらず、思い出すことのできない性（さが）を持たされた。それゆえに、ミ・フェラリオの語るつぎの物語を伝えよう……〟

ショウ・ザマ

▲いつのまにか、自分の心が相手に伝わらないと髪をいじるクセが。

強いオーラ力を持つために、異世界バイストン・ウェルにある小国の領主・ドレイクの戦力——オーラ・バトラーを操る聖戦士として、地上から呼びよせられた。ショウは何のために自分が戦っているのかもしらず、異世界で展開される戦乱に巻き込まれていった。

だが、そんなショウの戦士としての自覚は、さまざまな人間たちとの出会いにより、しだいに目ざめていく——自分が戦う相手こそドレイクであり、この戦乱をおさめるには、すべてのオーラ・メカを消しさる以外にはないと……。

激化するあまり、地上にまで広がった戦雲を静めるため、ショウは戦う。

（声・中原　茂）

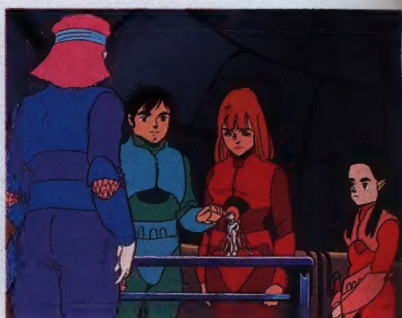
▲オーラ・バトラーと一体と化し、聖戦士ショウは戦う。

ショウの出会い

▲真の聖戦士への道を、シーラに悟される。

▲マーベルは、彼と同じ運命を歩むただひとりのひと……

MEMORIAL OF SHOU

▲チャムとともに恐怖の戦場へ。

▲愛すべき仲間、ニー、キーン、そしてマーベル。

バイストン・ウェルで、そして地上でさまざまな体験をつんだショウ。その姿をピックアップしてみた。

1話

1話

1話

19話

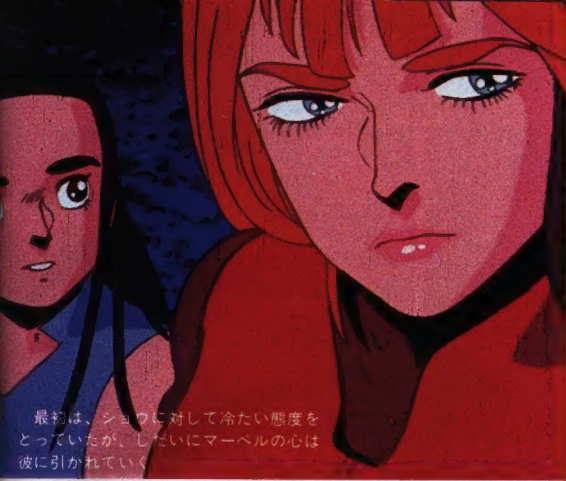
2話

33話

His Aura Battler

聖戦士としてのショウにとって、ダンバイン(右)は分身とでも呼ぶべき存在。しかし、彼のあまりにも増加しすぎたオーラ力にたえられなくなり、変わってアの国から送られたビルバイン(左)が登場した。

マーベル・フローズン

ショウよりも先にバイストン・ウェルに降り、ギブン家に身をよせていた地上人。私情の戦いを嫌い、大義を重んじる彼女に、ショウは多くの影響を受けた。最近、つぎつぎとオーラ力を増大化する地上人たちに対し、おくれをとった自分の力の無さに悩み始める。（声・土井美加）

最初は、ショウに対して冷たい態度をとっていたが、しだいにマーベルの心は彼に引かれていく。

▲戦場をショウとともに。

▲マーベルのヘルメット姿。

▲以前思いをよせていたニー。

▲私服姿は神秘性すら感じさせる。

Her Aura Battler

いまの彼女の愛機は、ショウからゆずりうけたダンバイン。

▲最新型、ボチューン。

▲ラウの国のボジン。

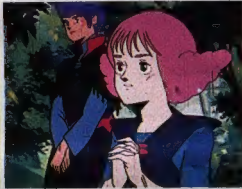
▲ギブン家のダーナ・オーシ。

エレ・ハンム

ミの国の国王・ピネカンの娘。両親の死後、身をよせていた祖父――ラウの国の国王・フォイゾンが対ドレイク戦で戦死したために、彼女はラウの国の王女となり、その遺志を継ぐ。コモンながら予知能力などの霊力を持ち、悪しきオーラ力にふるえる。（声・佐々木るん）

▲ラウの国の甲冑に身を包み、王女エレとしての苦難への旅が始まる。

▲祖父、フォイゾンの最期が、霊力により彼女に伝わる。

▲たえぬ不幸に、いつも悲しみに沈んでいる少女だった。

▲母、パットフットとともに、長く続いた放浪の日々も……。

▶エイブに助けられ、ゴラオンの艦長を務める。

▲オマケ・シャワーシーン

Her Aura Ship

ラウの国が開発した巨大戦艦。全長が820メット、重量は102000ルフトン。フォイゾンの死後、王位とともにこの戦艦ゴラオンを受け継ぐ。

ニー・ギブン

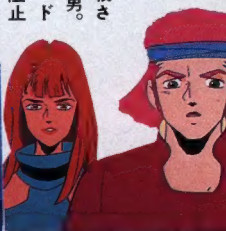
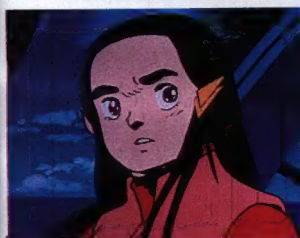
ドレイクの陰謀で、反逆者として殺された小国の領主、ロムン・ギブンの長男。父にかけられた汚名をそそぐため、ドレイクのバイストン・ウェル征覇を阻止すべく立ち上がった。ショウやマーベルのリーダーとして、オーラ・シップ〝ゼラーナ〟で戦う。（声・安宅　誠）

▲多くの仲間たちとともに戦う、若きリーダーのニー。

▲マーベルの信頼をうける。

◀ギブン家が開発したオーラ・シップゼラーナ。

◀戦闘を指揮。

キーン・キッス

ギブン家のために戦う少女。男顔負けの戦士だが、ときどき自分はひとりぼっちで、だれも必要としないんだ——と、自虐的になるときも……。（声・高田由美）

▲燃えるような闘志を内に秘める。

▲チャムとは、大の仲良し。

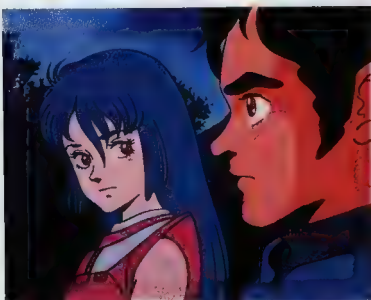
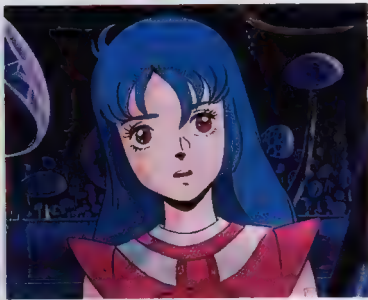
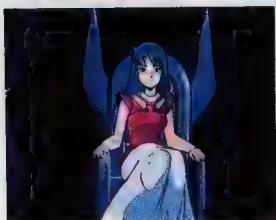
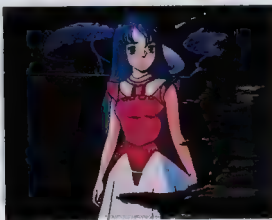
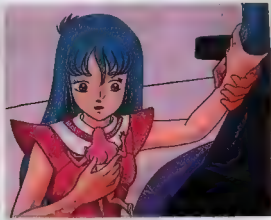
▲ダンバインの長路離移動用ウィングキャリバー・フォウ

▶仲間たちにあたたかく見守られ……。

▶戦士としてショウを援護する。

シーラ・ラパーナ

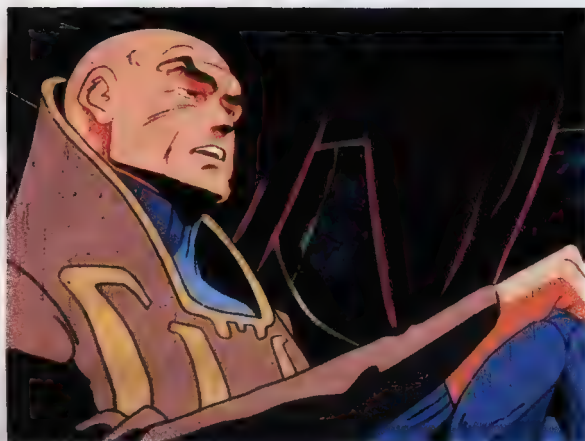
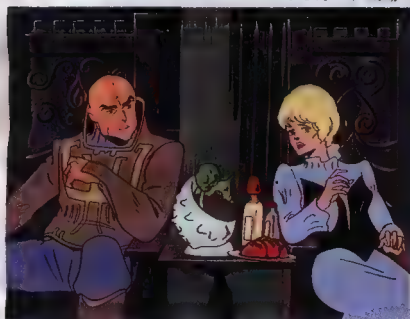
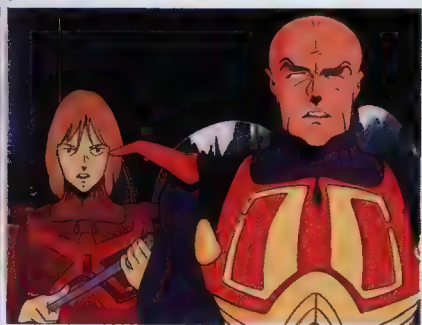
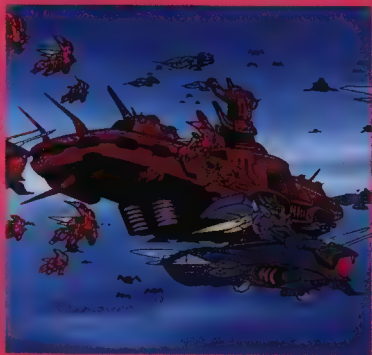
真の聖戦士としての自覚をショウにうながし、新オーラ・バトラー〝ビルバイン〟を与えたナの国の女王。
ショウに対してほのかな恋心をいだいているが、戦乱のなかで自分や彼の立場を認識しているため、けっして口に出そうとはしない。（声・高橋美紀）

▲王族としての気品と威厳が、彼女にはそなわっている。

▲「あなたの甘えでは……」とショウに語る。

▲赤い嵐の玉にシンドロたちに捕えられていた。

▲ナの国の城内にて。

▲はじめてショウと出会ったとき。

▲彼女の友だちのエルフィノ。

▲ナの国の巨大戦艦グラン・ガラン。シーラが艦の指揮をうけもっている。

▶彼女はショウの手で嵐の玉から助けだされた。

ドレイク・ルフト

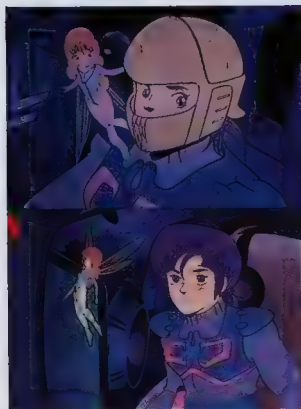
地上人のショットが開発したオーラ・メカを戦力にして、アの国の地方領主から国王にのし上がった野心家。バイストン・ウェル征覇をたくらむ。彼のそんな野望が、バイストン・ウェル全土に悪しきオーラ力を充満させた。（声・大木正司）

▲地上から呼びよせた聖戦士たちの力を得て、戦場へ。

▲彼の野心のすべてを妻、ルーザは知っている。

▲ショットの出会いが、戦雲を巻き起こす契機に。

ルーザ・ルフト

目的のためなら、自分の娘・リムルでさえ犠牲にしようとするドレイクの妻。地上に出てからはビショットと行動している。（声・火野捷子）

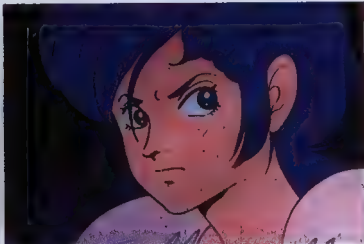
リムル・ルフト

ドレイクの娘として生まれたために、父親の悪事に悩み苦しむ少女。一度は愛するニーのもとに逃げ出し、父と戦士として戦うことを決意するが、すぐに連れもどされてしまった。（声・色川京子）

▲チャムにからかわれて……。

▲まだ少女のあどけなさが残っている。

▲愛するニーのそばにいるときが、彼女にとって一番しあわせ。

◀父と戦うため、ダーナ・オーシやフォウの操縦をおぼえる。

プラポーザの花言葉は、求婚なんですよ！　それも知らずにショウは……。

▲いま彼女はビショットの婚約者に。

◀ふたたび彼女が、ニーの腕のなかに飛び込める日がくるのだろうか……？。

▼リムルを自分の妻に……いまはもうはるかな夢。

▼聖戦士たちの教育も彼の役割だった。

バーン・バニングス

もともとは、ドレイク直属の正規軍で隊長を務めていたが、たび重なるショウへの敗北が原因で失脚。ショットの部下という屈辱にあまんじながら、ショウへの復讐に燃える。（声・速水　奨）

▲バーンの戦闘服姿。

▲自信に満ちていたころ。

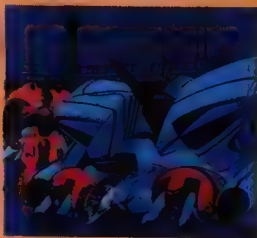
黒騎士

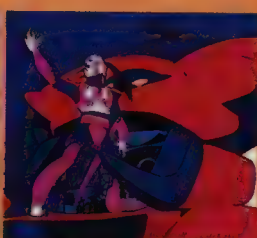
ショットの野心を達成するための道具として、バーンは黒いマスクをかぶり復活した

▲またもショウに……

▲邪悪なるオーラの象徴

▲復讐に燃える時。

His Aura Battler

▲オーラ・ファイター、ガラバ

▲黒騎士専用ズワース

▲最初の愛機ドラムロ

トッド・ギネス

ショウとともに、地上からバイストン・ウェルに降りたアメリカ空軍のパイロット。異世界の戦いを、あっさりと納得した楽天家。敵にまわったショウに対してライバル意識をいだき、ことあるごとに激突する。(声・逢坂秀実)

▲ドレイク軍の戦闘服に身をつつむトッド。

▲ドレイクの聖戦士としてむかえられる。

▲クの国のビショットから、ビアレスを贈られる。

▲地上にいたころはファントムIIのパイロットだった。

▲死んだと思われていた彼は、クの国で復活。

ビショット・ハッタ

▶クの国の国王。ドレイクに協力する陰謀家。
(声・曽我部和之)

His Aura Sihip

◀クの国が、ウイル・[illegible]した巨大戦艦ゲア・ガ[illegible]

His Aura Battler

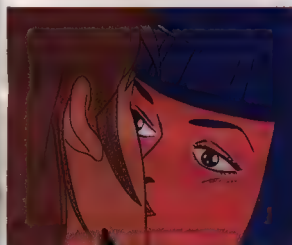
▼オーストラリア移民としての苦労が、彼を野心家に変えてしまった。

ショット・ウェポン

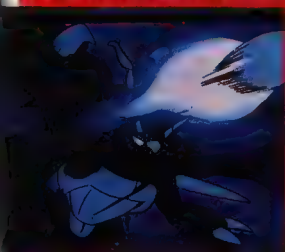
バイストン・ウェルに地上の機械知識をもたらし、オーラ・メカの数々を生み出した技術者。ドレイクの野望を利用し、自分自身がバイストン・ウェルを、そして地上を支配するための力をたくわえていった。（声・田中正彦）

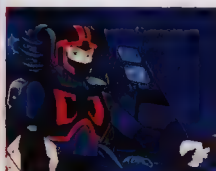
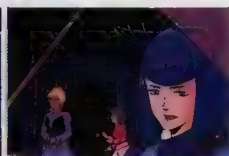
His Aura Ship

▲オーラ・シップ、スプリガン

▲ゼット・ライトは、彼の片腕ともいうべきメカニックだ。

▲彼女の愛もショットは利用する。

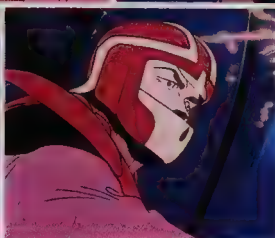
Her Aura Battler

▲[illegible]たライネック。

ミュージィ・ポー

ショットを愛し、彼のために働くことを誓った女戦士。バイストン・ウェルの人間でありながら、聖戦士クラスのオーラ力を持つ。（声・横尾まり）

▲ミュージィの戦闘服。

▲ピアノの教師だった。

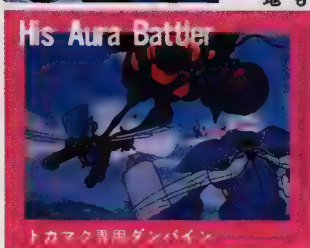
▶自分のじゃまになれば、仲間ですらうらぎる。
▼戦闘中でも、余裕を見せ音楽を……。

アレン・ブレディ

ショウたちにつづいて地上から呼びよせられた地上人。かつて米国空軍でトッド以上の才能を誇るパイロットだったが、ショウのビルバインに敗れ大空に散る。(声・若本紀昭)

▲戦いも、しょせん遊びとわり切る。

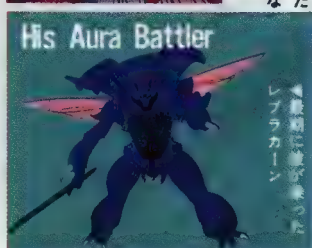
▲アレンの戦闘服

トカマク・ロブスキー

ショウとともに降りてきた地上人。

His Aura Battler

トカマク専用ダンバイン

フェイ・チェンカン

中国から来た聖戦士で冷静な戦略家。

His Aura Battler

レプラカーン

ガラリア・ニャムヒー

ルフト家の戦士。バーンを追い越したいといつも願っていた。彼女専用のオーラ・バトラー〝バストール〟を得て、ふるいたつが、地上という異邦で死亡した。（声・西城美希）

▲悲しみにうるむ目が印象的。

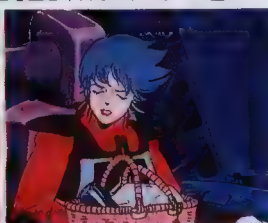
▶内側に激しい気性をもつ。

▲軍人の両親が戦場から逃げ、子どものときからいじめられた。

▲出世を望む平凡な女性だ。

▲バーンに敵愾心をもやす彼女。

Her Aura Battler

バストールは、ガラリアのバイオリズムに合わせた専用メカだ。

▲地上でガラリアは孤独だった。

▲ガラリアのヘルメット姿。

赤い三騎士

ゴラオンとグラン・ガランをビショットの命令で追撃する遊撃部隊。3機連続によるトリプラー攻撃を得意とする。

▲地上へ出ても動じぬ歴戦の指揮官ガラミティ。

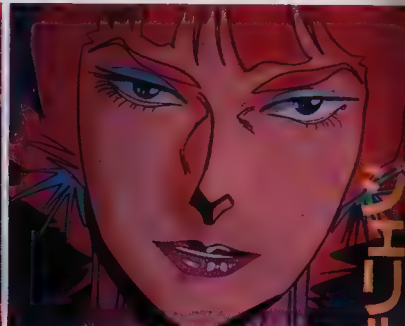
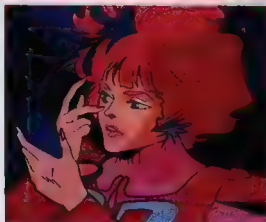
▲ニェット（右）とダーは、タフな兵士だ。

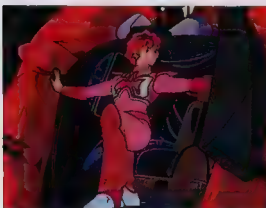
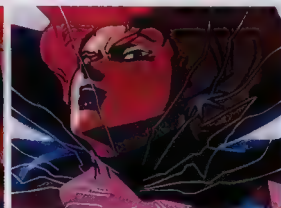
Thier Aura Battler

赤い3騎士は、赤く塗装したズワースで連続攻撃をかけ勝ちぬいてきた。

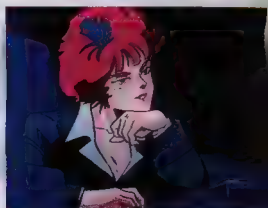
▼アイルランドのデブリン出身のロックシンガー。少女時代は不良で、意志の強さはその時以来のものだ。

ジェリル・クチビ

オーラ・バトラーの戦いで殺人を楽しみさえする激しい気性を持つ女戦士。一名〝赤い髪の女〟といわれる。ドレイクの戦士として悪のオーラ力の虜となった。（声・大塚智子）

▲あくまで女そのものの気性だ！

▲燃えるような赤い髪がセクシー。

▲このポーズ。さすが芸能人♡

▲地上に戻り、ハイパー化してショウたちを追撃した。

Her Aura Battler

ジェリルは、ドラムロからボゾン、レプラカーンへと愛機を取り変えていった。

フォイゾン・ゴウ

民を愛し、ドレイクと戦うラウの国王。（声・西村淳二）

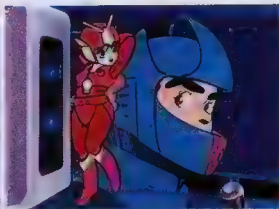
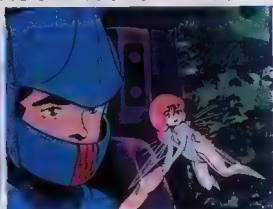
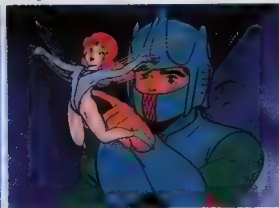
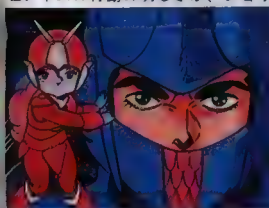
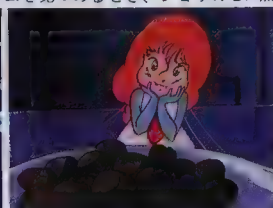
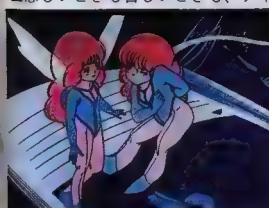
▶自ら先陣で戦うフォイゾンは、ボチューンで戦った。

◆マーベルにキスするショウにやきもちをやくこの女らしさ♥

チャム・ファウ

ミ・フェラリオ。ゼラーナの一員となって、ショウたちの重要な仲間となっている妖精。身長30センチぐらいで自由に空中を飛ぶが、まだまだイタズラ好きの恋する少女である。その想いは、ニーからショウに移っていった。

（声・川村万梨阿）

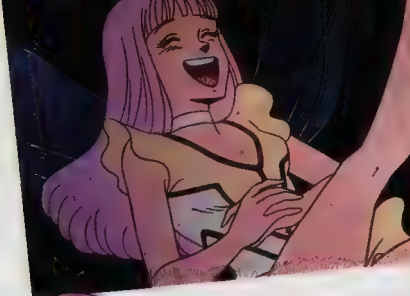
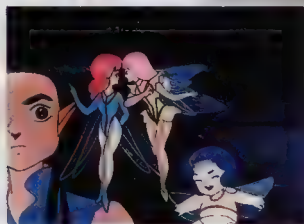
▲チャムは、戦いつづけるショウの大きな心の支えになっていく！

▲チャムの行動の明るさが、ショウやゼラーナの人々の心をなぐさめていく。

▲悲しいときも苦しいときも、チャムを見つめるとき、ショウの心に熱い、楽しい想いがわきあがっていく。

▲地上のチャム人形にビックリ。

▲この表情♡　やはり、根がひょうきんなキャラなのですね。

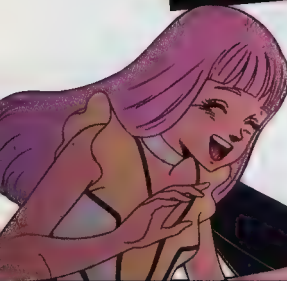
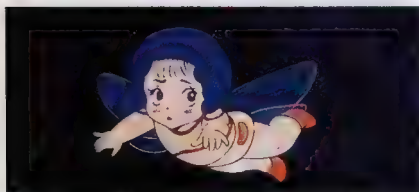
◀陽気で無邪気な性格

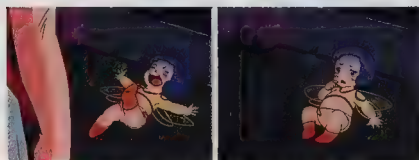
▲あんた、こういうの好き？

エル・フィノ

シーラづきのミ・フェラリオ。エンディングの最後で花のつぼみになる彼女は物語のどんなカギをにぎるのか――。(声・富沢美智恵)

▲「品性を身につけなくっちゃ」

▲「あんたがそんな上等なのかよ～」

▲チャムの上をいくおてんばぶり♥

▲「シ～！」

▲いつでもナの国の王女、シーラのそばで

ベル・アール

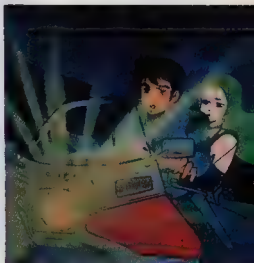
▲エルのあいぼう役のフェラリオ(声・西条美希)

▲まだ、ほとんど赤ちゃんと同じなんです。

▲ドレイクの悪事に利用され、悲しみに涙する。

シルキー・マウ

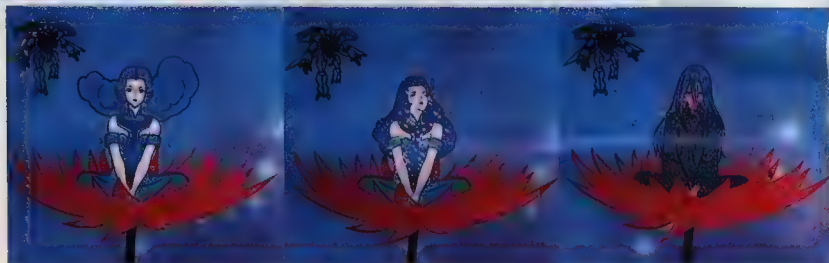
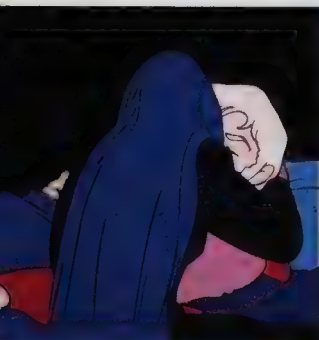
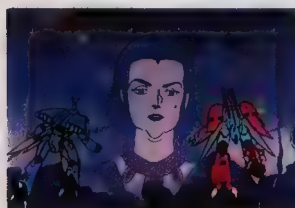
ドレイクに捕えられ、地上人たちをバイストン・ウェルに導く禁断の道――オーラ・ロードの門を開けてしまったエ・フェラリオ。いまはその罪で、ミ・フェラリオの姿に変えられてしまい、500年間の修業についている。（声・高橋美紀）

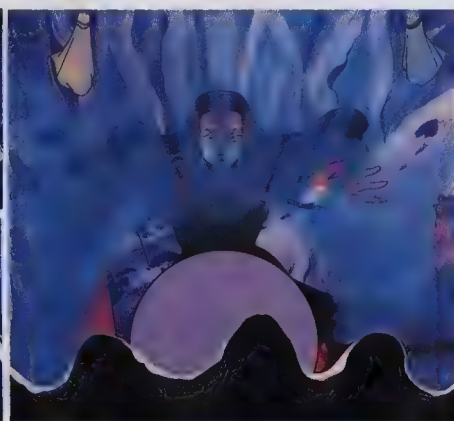
▲もともと水生な彼女は、水のなかでは妖しいまでに美しい。

▲彼女が呼び込んだ地上人、ショウに救出され……。

▲オートバイで脱出。

ニクス・テイタン

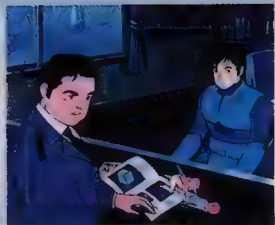
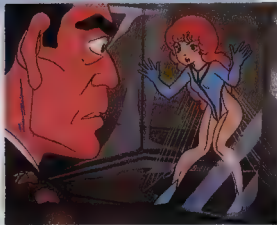
エ・フェラリオ、ナックラ・ビーの仮の姿。マーベルを地上から導いてしまったために罪をうけ、この醜女の姿にされてしまった。（声・佐々木優子）

▼重傷を負ったトッドを看護した彼女は、しだいに……

▲マーベルの願いで、ジャコバは彼女の罪をゆるし、もとの姿にもどした。

ジャコバ・アオン

▲霊力を使いすぎ、老人となった。

フェラリオの長。バイストン・ウェルが戦乱による邪悪なオーラ力で崩壊することを恐れ、その根元であるオーラ・メカを地上にはじき出した。（声・吉田理保子）

●地上人たち

軍人

▲ギリシャ軍、司令官

▲皆川司令官

▲自衛隊指揮官

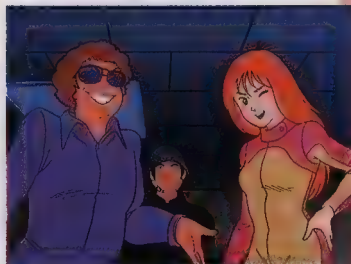
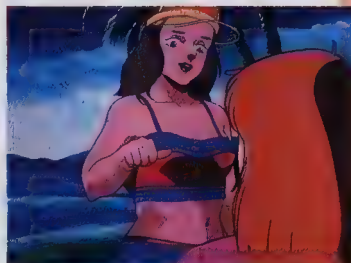
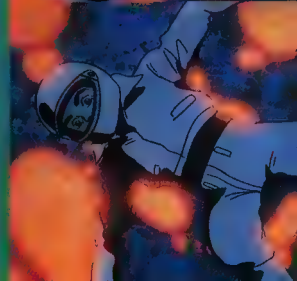
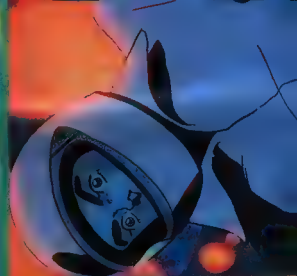
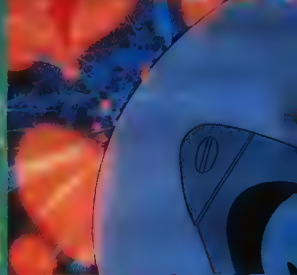
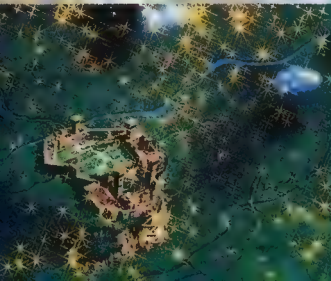
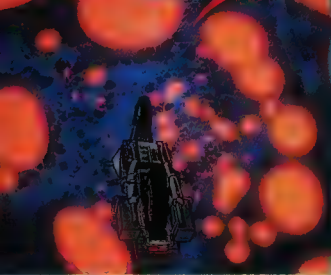
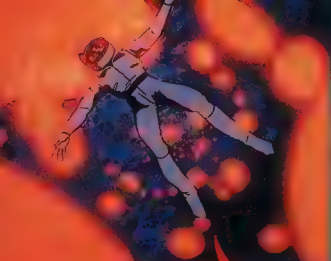
家族たち

▲ショウの両親、シュンカとチヨ

▲マーベルの両親

▲トッドの母

友人たち

▲ショウのバイク仲間、沓田

▲沓田の彼女（右）

▲マーベルの友人、バルバラ

Dirty Pair
BEST
SCENE

②地上人は、戦士としてこの世界によびこまれていた。

①バイストン・ウェルに到着するショウ。

③イタズラッ娘の妖精チャム・ファウ。ショウは、妖精という存在に驚くが、やがて彼女はショウの真の友となっていく……。

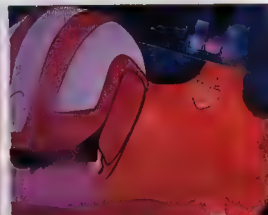
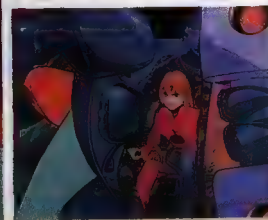
4怪獣ガッターと

バイストン・ウェルへ
――第1話「聖戦士たち」より――

⑦ショウの乗るオーラ・バトラー〝ダンバイン〟と戦うマーベルの乗るオーラ・バトラー〝ダーナ・オーシ〟。

⑤ショウ、そしてトッドたちは、オーラ・バトラーを試乗する。

⑥ショウたちは、オーラ・バトラーで初の戦いを開始した。

⑩ショウは、やがてドレイクの野望を知り、ニーやマーベル、キーンとともに、彼をこの世界によんだドレイクと戦うことになる！

⑧マーベルは、ショウに語りかけてきた。

⑨彼を呼んだドレイクという悪に手を貸さないでほしいと……。

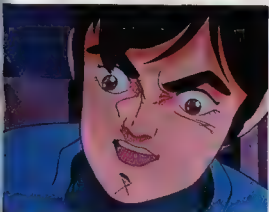
①ダンバインたちの戦いは、東京の数万人をまきこんでいく!!

②ショウが姿を消し、苦戦から対立するニーやマーベルたち。

③ガラリアは、地上人を襲って食糧を手に入れていた。

④ガラリアの心は、孤独とそしてミジメさにふるえていた……。

⑤ショウは、1度は彼を拒絶した両親に再会した。

⑥自分の身の保全を考え、母親はショウに向け、発砲した!!

⑦「どこまで身勝手なんだ!!」悲しみに絶叫するショウ!!

異邦人ショウ

第18話「閃光のガラリア」より

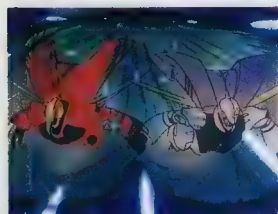
⑩ガラリアのバストールは、防衛隊の戦闘機隊と戦っていた！

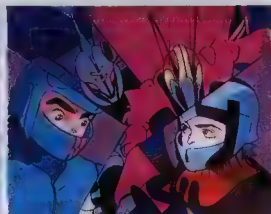
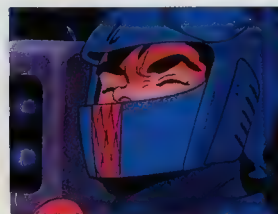
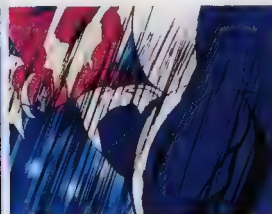
⑨「ショウ……かわいそう」ショウに抱きつくチャム。

⑧ガラリアを迎えうつべく、傷心を胸に飛び立つショウ！

⑬激突するダンバインとバストール!!

⑫〝パパを殺すな！〟と見えてくる映像。愕然とするガラリア。

⑪F 15の上に降り立つバストール。剣をふりあげたとき！

⑯いま、ショウとチャムとガラリアのオーラ力がひとつに!!

⑮バイストン・ウェルへ戻ろうと飛翔を開始するショウたち。

⑭ショウは、ガラリアに力を貸してくれと語りかけた。

⑲ガラリアの運命に、名を呼び絶叫するショウ……。

⑱オーラ力に耐えきれず、爆発するバストールとガラリア。

⑰ガラリアは、いま眼前にオーラ・ロードを見るが!?

カラリアが死に[illegible]
ことは不可能に思えた　しかし[illegible]

①「とどめをさしてやるよ！」ゼラーナを猛追するジェリル。

②ビランビーの攻撃がかけられようとしたとき！

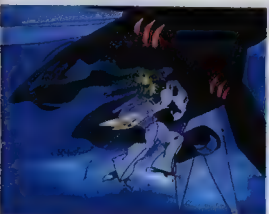
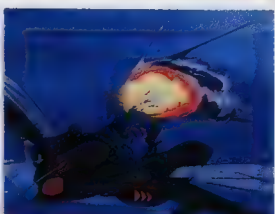
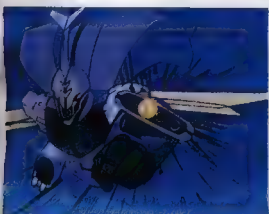
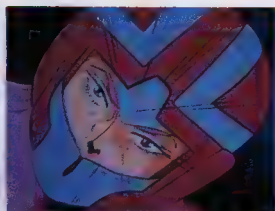
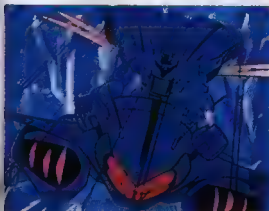
③ジェリルのビランビーの頭部が突如、ふきとんだ！

④「まにあったか！」地上から戻ったショウがやってきたのだ。

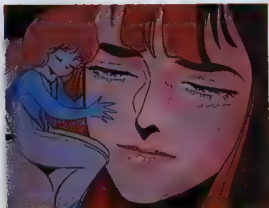
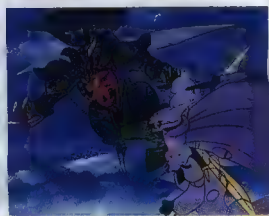
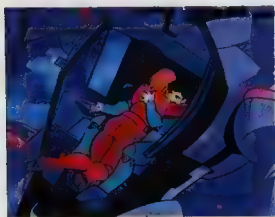
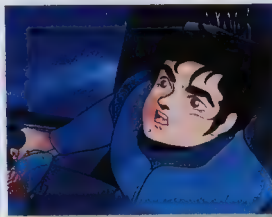
⑤ジェリルにつづき、フェイのビランビーに迫るショウ。

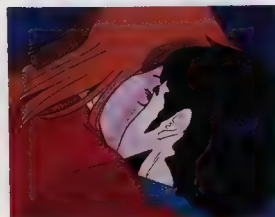
⑥「必殺のオーラ斬りだ～」とチャム・ファウのかけ声。

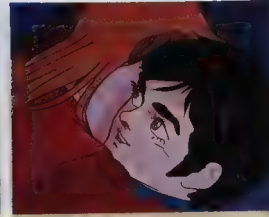
⑦マーベルのボゾンに近づいていくショウ。

⑧地上へ行っていたことをマーベルに話すチャム・ファウ。

帰還

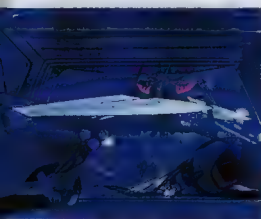
——第19話「聖戦士ショウ」より——

⑪「ショウ……」「マーベル、ごめんな。苦労かけてさ……」
「んもう」マーベルの体が宙を飛ぶ。

⑨「よく、よく帰ってくれて…」
マーベルのふきあがる感情。

⑩「マーベル、無事でよかった」
手をにぎりあう2台……。

⑭ショウの腕の中にとびこんでいくマーベル……。

⑬びっくり仰天のショウ！

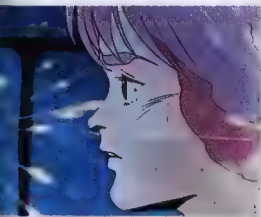
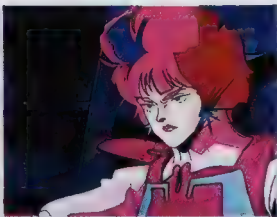
⑫宙を飛ぶマーベル。

⑰いま、ふたりの思いはひとつに。

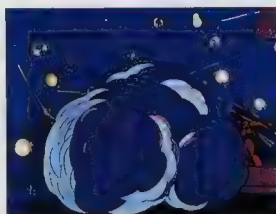
⑯「ありがとう……マーベル」

⑮「マーベル……」
「よく、よくも帰ってくれて……」

①巨大戦艦ウィル・ウィプスは、オーラ・バトラーの戦隊を率いて、ラウの国へと侵攻していた。

②フォイゾン王は、自らボチューンで戦場へと打って出た。

③フォイゾンは、ウィル・ウィプスの格納庫内に突入した！

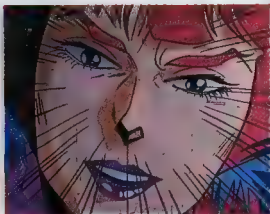
④ジェリルは、フォイゾンを追撃する！

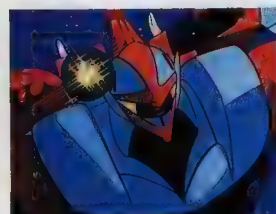
⑤エレは、祖父のフォイゾンの危機を霊力で知った！

ビルバイン出現！

第29話「ビルバイン出現」より

⑥ジェリルのトドメがフォイゾンを撃つ!!

⑦バイストン・ウェルを守ろうとするフォイゾンも散る！

⑧砕け散るフォイゾンの乗るボチューン。

⑨ダンバインは深手を負い、戦場を離脱していた。

⑩前方より飛来するシーラから贈られたビルバインの勇姿。

⑪ダンバインからビルバインへとショウは飛び移る。

⑫ビルバインは、オーラ・バトラー形体へとチェンジした！

⑬その性能に驚くショウとチャム。

⑭戦場へと飛来するビルバイン。おそるべきパワーだ。

⑮アレンの乗るビランビーを一撃でたたっ切るビルバイン！

⑯ショウのオーラ力がビルバインの中ではずむ!!

⑰爆発するビランビー。アレンの最期だ。

悪しきオーラ

①エレは霊力で、強大な悪意の接近を知った。

②それはオーラ・バトラーと赤い髪の女のイメージであった。

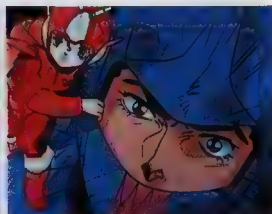
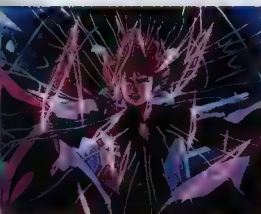
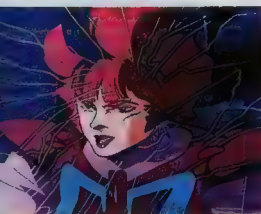
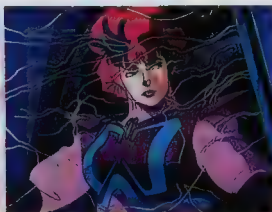
③マーベルのダンバインを迎え打つジェリル・クチビ。

④ジェリルのパワーとスピードがマーベルを圧倒する！

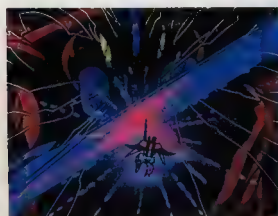
⑤「このパワーはダンバイン以上。返しきれない!!」

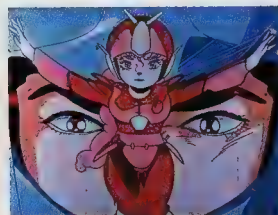
⑥得意で叫ぶジェリル。「落ちろよー!!」

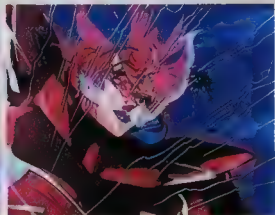
⑦かけつけるショウのビルバイン。「マーベル、離れろ！」

⑧ふたりの猛攻にふきあがる怒りのパワー。「ナメルナ〜!!」

ハイパー・ジェリル!!

第37話「ハイパー・ジェリル」より

⑩ショウの乗るビルバインを追撃するジェリル。

⑪剣を合わせ、後方にダンバインは飛びつづけていた。

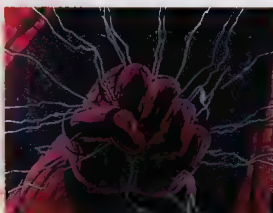
⑨爆発するようなジェリルのオーラ力のパワーは、レプラカーンを巨大化させていく!! 愕然とするショウ、マーベル!

⑭「ナムサン」とショウ。絶叫するチャム。「ヤラセナイヨ!!」

⑬ビルバインはレプラカーンの左手の中に。「しまった!!」

⑫哄笑するジェリルそのものが表面に。「逃げられやしないよ」

⑮「ショウ」「ショウ」「ショウ」「ショウ」マーベルの想いが、エレの、ニーの、キーンの想いが!! いま、ショウはひとりではなかった!!

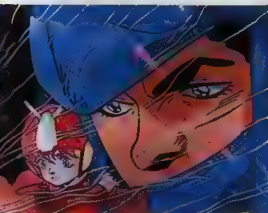
ハイパー・ジェリル!!

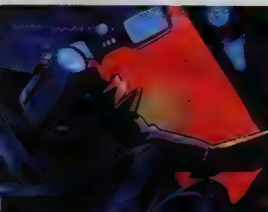
第37話「ハイパー・ジェリル」より

⑮ビルバインにみなぎっていく人の、人間のマインド・パワー。

⑯レプラカーンの左手の中で爆発するエネルギー。

⑰砕け散るレプラカーンの左手の表層。

⑱レプラカーンの表皮が爆発するエネルギーの中、砕け散る!!

⑲「熱いよォ」とうめくチャム。ショウの心にみなぎるパワー。

⑳「見えた!!」ショウは、レプラカーンの実体を発見した!

㉑左手をふきとばし、レプラカーンの実体に迫るビルバイン!

㉒「ジェリルー!!」オーラ・キャノンの閃光が!

㉓ジェリルのコックピットをその射程に捕えた!

㉔怒りと人間の哀しみのゆらめきが青空に散っていく……。

㉕「ショウ……やったの」遠くの空を見つめつぶやくマーベル。

㉖ショウの、チャムの心がふるえる――哀しみと怖れに……。

座談会

「聖戦士ダンバイン」について語ろうよ

●出席者
坂本英明（ビーボオー・原画）
遠藤栄一（ビーボオー・原画）
矢木正之（ビーボオー・原画）
大森英敏（ビーボオー・原画）
北爪宏幸（ビーボオー・原画）
出渕　裕（メカ・デザイナー）
池田憲章（AM編集部）

「聖戦士ダンバイン」もいよいよ後半のクライマックスを迎えようとしている。そこで、今回は、湖川友謙チーフ作画監督の下、作画監督、原画として活躍されているビーボオーの若手原画マン、そしてオーラ・バトラーなど、メカニック・デザインを担当している出渕裕氏をまねいて、気軽に「ダンバイン」について語ろうという趣向。あなたの目は、あなたの身体を離れてこの不思議な空間へと入っていく……。

むずかしいキャラだけど好きなんだよね♡

池田　「聖戦士ダンバイン」もいよいよ後半のクライマックスに入り、演出、ならびに作画ももりあがっているんですが、最近、「ダンバイン」のキャラは、急激に肉体化してきたという気もするんですが？

坂本　確かにキャラを作っていた段階ではイデオン調でもう少し省略した、デフォルメされた形で作っていたんですけど、だんだん話の内容もシビアになってきて、たぶんそのせいもあって、リアルな方向に傾い

ていると思います。

池田「ダンバイン」は、目線の芝居なんか多いですけど、演出の要求ってのは、どうなんですか?

遠藤　あんまりないですね。

坂本　そんなにないですね。

矢木　コンテ渡されて、まあやってくれと。

遠藤　自分なりに描いて送りますよね、演出に。それでいいのかなあという感じなんですが、ほとんどそれであがってしまいますね……。

池田　チャムはよくヘルメットにつかまってますね。あれなんか、コンテで、こういうポーズをとれと指定があるんですか!?

坂本　ええ、ここにいますよぐらいなことは描いてありますね。芝居は、内容からかなり作っていますよ。

池田　キャラとして描きやすいキャラというのはいますか?

坂本　う~ん。湖川さんのキャラというのは、やっぱりむずかしいですね。実に微妙なんです。もっとうんと崩れたキャラですと、だれが描いてもその人になっちゃうんですけど、似てる似てないじゃなくて、その人になれるんです。ところが、例えば、マーベルですが、ならないんですね。かなりリアルなキャラだからなのかな……。

池田　みなさん、むずかしいとなるとマーベルですか?

遠藤　マーベルです。ニガ手ですね。

矢木　ぼくはちょっと描けませんねえ……。

遠藤　ちょっとのことでふんい気が変わってしまうんですね。いつも固いような表情になってしまう。

キャラで動かしやすいってのは、ゼット・ライト。いますよね、くずしてもそのキャラになるという(笑)。

坂本　ガロウ・ランとかね。サブキャラというか、その辺におもしろいキャラがあるんですね。ああいうのがメインのキャラだったら楽しいだろうなと思いますねえ。

大森　そうですね。

坂本　さっき別の場所で雑談してたときに出た話なんですけど、やっぱりできあがったキャラが性格をすでにもっていて、このキャラならこんな動きができるなあ、というイメージがあるほうがいいなと思いますね。

池田　好みの話でけっこうなんですが、描きやすい描きにくいは別として、おひとりずつ、好きなキャラがあったらちょっと教えていただきたいんですが?

坂本　描ける描けないは抜きにしてもらえ

ぼくの「ダンバイン」坂本英明

H. Sakamoto.

**私はやはりドレイク・ルフトが一番好きです。
もっともっとかっこうよく登場する場面があるといいですね。**

いたんですが、ドレイクが好きですね。

遠藤　いわれてしまった。ドレイクが好きなんです。ガラリアなんかも好きです。

矢木　ぼくはどっちかというと、ミュージィさん、マーベルなんかが好きです。

大森　死んだガラリア。それにジェリル、あれが最高ですね。

北爪　マーベルにシーラさん。

遠藤　あっ、このやろう（笑）。

出渕　ぼくは、やはりといわれるかも知れないですけど、シーラが好きですね。

池田　ぼくはジェリルです、やっぱし。

遠藤　出渕さんなんかは、湖川さんのキャラはどうですか？

出渕　ぼくは湖川さんのキャラは、イデオンのころは、そんなに気にしてなかったですね。描き方についても。ただ、湖川さんの

聖戦士ダンバイン 4の局　by 遠藤栄一

●いよいよ怒濤の5の局へつづく。

キャラでいつも感心しちゃうのは、職業柄かもしれないけれど、服装のデザインとか例えばバッフクランの服なんかおもしろいなと思って「イデオン」のときは見てました。あと、毎回毎回違うのをやろうという姿勢が見えますね。作品ずつ個性を変えていこうとしてるのが。ああいう姿勢そのものが好きです。同じアニメーターの方が違う番組やっても髪形かわっただけというのが多いですから、いろいろ実験してるんだなっていうのが見えましたね。

坂本　それは本当にその通りですね。傍にいるわれわれがまごつくぐらいですから。

出渕　「ザブングル」のキャラを最初に見せられたときは、ひっくり返った憶えがあります(一同笑)。

遠藤　あまり斬新なんで。

出渕　ジロン見て、これは「脇役なんですか?」って、ブルメのほうを見て、最初ブルメってかっこよかったから「これが主役ですか?」って聞いたら、「いや、こっちが主役で、こっちは脇役」って。「ええっ!?」って聞き返しちゃった。固定観念を打ち破るというところがスゴイと思います。

湖川キャラはふとしたイタズラ描きから誕生!?

池田　湖川さんはキャラを描きためているタイプのデザイナーですか、それともその都度新しく描くほうですか?

遠藤　例えば、いま「ダンバイン」やってますよね。するとたまたまイタズラ描きしてるんですよ。それがつぎの作品に使われたりしますよね。ジロンなんかもそうですよ。「イデオン」のはじめのころ、もうあれをやりたいっていってたんですよね。まん丸顔で、つぎはこれで行きたいと。で「ザブングル」が来たら〃もうどんな話でも、あれにするんだ(笑)って、もうムリヤリにでもするんだ〃っていってましたものね。

坂本　大抵ねえ、一緒にメシなんか食って落描きして雑談してるうちに、これはおもしろいとかなっちゃうのね。

矢木　それを破って持って帰るの(笑)。

坂本　はじに描いてあるのを破ってね。ジロンもそうだし、ショウもそうなんですよ。もう話なんか出るズッと前からアゴに×点あったしね。

出渕　あの×点、何なんです。傷ですか?

遠藤　傷じゃなくてやんちゃ坊主って感じ

ぼくの「ダンバイン」遠藤栄一

みんな夢見たバイストン・ウェル。ガラリアもそのひとり！　男勝りの負けず嫌い。
野心のかたまりのようなガラリア。惚れた男によってコロリと変わってしまいそうな女の弱さを秘めてるところが、とても人間くさくてひかれるのです！

なんですよ。

北爪　カーク・ダグラスのアゴのあれなんじゃないのかなあ。

大森　湖川さんは、あれは実は鼻にしたかったという話（一同笑）。鼻に×点をつけたかったんだけど、それができないから、アゴに持っていったらしいですよ。

池田　ショットの頬も傷なのかヒゲなのか不思議な感じですものねえ……。

坂本　湖川さんは、たぶんどっかで何かのヒントを見つけてると思うんですよ。ショットのヒゲにしろ、ショウの×点にしろ、いつか使ってやろうと何か、頭の中にあるみたいですね。

出渕　服装なんかは、今回の「ダンバイン」は、富野さんの指示なんですか？

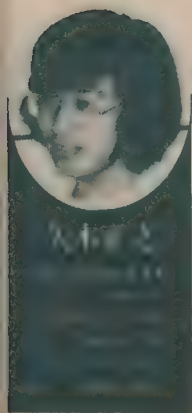
遠藤　デザインに関しては、全部うちの大

ミュージィー・ポーてのわりと気にいってるのだが、やはりマーベルと並んでニガ手デスなあ〜〜。やっぱり、かわいい娘キャラにすべきだったか、うつく、最終話やれないのが残念！ とにかく、みなさん。これからもビーボオーをよろしく！

将がやってるよね。

坂本 服装に関しては、だいたい内容が決まりかけていたとき、あれは中世の時代背景ぐらいじゃないかというところから出発して、さかんにその手の本を読んで、勉強や研究をしていたようですね。その辺からヒントを得て、出きあがったものがあるんじゃないですか。それから最初持ってる武器も石を投げたり、弓矢で射ったりとか、そういう形だったでしょう。なんか、いつの間にか、核爆弾まで行ってしまったけど。

バイストン・ウェルってどんな世界なんだろう!?

坂本 最近思ったんですけど、いわゆるバイストン・ウェルなるものを思いついたときに、地上の世界と別の世界というふたつ

の世界を行き来することで、広がりとか、まるっきり別の場所に来たという、何というか緊張感や安堵感が交互に来るという見せ方、演出方法として、すごく斬新だと思ったんです。例えば「イデオン」のときには、舞台が常に宇宙だったんです。たまには星に降りるという話もありましたけど。
　宇宙で画面を説明するのに、こっちから何万光年離れたここへ来ましたといっても、まだ宇宙なわけです。せっかく宇宙をテーマにしながらも、結局は、狭い狭い船の中でごちゃごちゃやってるだけで、宇宙をとりあげたにしては、あまりにも宇宙が表現されてないんじゃないか――これは個人的な意見ですけど、そう思ったんです。で、バイストン・ウェルの話を聞いたときに、これはすばらしくおもしろいだろうな、と思った。ところが最近の話になってきて、地上の話ばっかりになってくると、またこれも同じでしてね。なんか緻密な持ってき方、見せ方というのができるとしたら、例えば一丁目に住んでる人がそこだけの話を二丁目に移したら、随分変わった気がするでしょう？　けっして何万光年の距離がその舞台の主題ではなくて、まるっきり舞台が変わってしまうっていう扱い方をもっとやりたいなっていうか、個人的にはそう思いましたね。ですから、いま、地上に出ていろいろ戦闘機やなんか出てくるのもそれはいいでしょうけど、やはりバイストン・ウェルというところにまた戻りたい、というか、ほっとしたい。そういう使い方ができたら効果的だろうなと思います。

池田　いまはバイストン・ウェルから現実のほうへ来ているわけですけど、やはりみなさんとしては、逆に表現しきれないうちに現実にとびだしてしまったというイメージはありますか。

坂本　うん、そうなんですよね。「ダンバイン」が始まったころ、こういう雑誌のインタビューで〝バイストン・ウェルっていうのはどういうものでしょうか？〟と印象をきかれて、まだはっきりわからなくて困ったんですけど、いまだにそれが変わらないというのはまずいんじゃないかと(笑)。ぼく自身の不勉強もあるけど、なんかちょっとわかりにくいですね。

出渕　作品をみてると、まだやり残したことがたくさんあるような気がしてならないですね。逆にバイストン・ウェルの世界にいたときのほうが、常じゃなかったというか、中世をそのまま使ってて、イギリスのある時代に似てるんだけど、ナの国とかいうような国があるわけですけど、他の国へ行ったら、他の物が見えるかというと、アの国とまったく同じ国があって、同じ服装をした連中がいる。例えば、映画で見ると、ロシアとモンゴルが戦うと、完全に服装が違ってて、考え方も民族も違っている。

出渕　そういう違う者が戦争してるのって、おもしろいなと思うわけ。でも扱ってるのがアーサー王あたりの話でしょう。それがどうも富野さんの頭にあるんじゃないかと思うんですけど、どこに行っても何に行っても同じで、何の国っていわれてもただ森があって、こう海藻のあれが立ってるだけで、じゃ、地の果てにでも行くかというと別にそんな地の果ての描写もないし、すごくあいまいなような気がするんですよね。

矢木　そういうのは、メカニックに関しても、その国とまったく違う物ってのは、通らないんですか?

出渕　違う物ってのは考えたんですけど……。まず最初に富野さんのほうから来たのは、ビランビーだったんですけど、富野さんがいうには、ダナ・オーシとかドラムロっていうのは、これは時間切れだからでしようがなく使った、といういい方をされたんです。だから、ダンバインの延長みたいな感じで考えてほしいといわれたんです。

　それで最初に決定したのはビランビーだったんですけど、それを直して湖川さんにクリンナップしてもらって、しばらくはこういう感じという話だったんです。気がついたら、あの世界の中でオーラ・バトラー作ってるのってほとんどショット・ウェポンひとりでしょう。

矢木　だから似ているのではないかと(笑)。

出渕　他の人たちは技術が流れて、同じような物を作っているという設定でしょう。ちょっと変わった物というか、悪役ぽく描いたものでも、例えばボゾンのラフをやらせてもらって矢木さんにクリンナップしてもらったんですけどね、あれにマーベルが乗ると聞いた時はひっくり返りましたね(笑)。こんな怪獣みたいなのに、なんでああいう女の人が乗るんだと。これも悪役だろうなんて思って描いてたのが、ボチューンなんかも味方になっちゃったし、ともかく名まえだけ出されて描いていたんです。ライネックと、レプラカーン、ズワースと今は出てないけど、先々出てくるからラフをあげてくれと、しばらく時間があったので、湖川さんとキャッチボールみたいな感じで作ったんですけど、それもこれはどこでどういうふうに使われるという説明は一切ないです。

坂本　それは設定を作る段階で聞かされていたほうがイメージとしては生きたと。

遠藤　確かにボゾンにマーベルがのるんなら、多少それなりにね。

坂本　その意外性っていうのがまた、新鮮さがあるかもしんないんだけどね。マーベルがのるなら、こうだっていうことじゃなくてね。

遠藤　スタッフとしては、一応聞かされて作りたいというのはあるだろうね。

こんなオーラ・バトラーが見てみたい……

池田　こんなメカや設定はどんどん出したいなんてありますか?

遠藤　ドラムロあたりはいいですね。

坂本　ドラムロは好きだね。一番なんか合ってる感じがするもんね。

大森　1話以来おなじみさんだものね。

出渕　実は、オーラ・バトラーの考え方自体、ぼくがかむ前にいろいろ進行さんから

ぼくの恋人　ジェリル・クチビ
もうお会いすることは無いのですか？
またひとつ、心の中にバイストン・ウェル
新作はもうすぐですね。

話を聞かされたのと、少しイメージが違っていたというのはあるんです。

坂本　といいますと？

出渕　まず、斬られるでしょう。例えば、空中で斬られて落ちて、バイストン・ウェルにいる時も爆発してるんですけど、はたしてああいう物が爆発するのかなあっていう気がするんです。

北爪　落ちたら、バシャッとくずれて、終わるとかね。

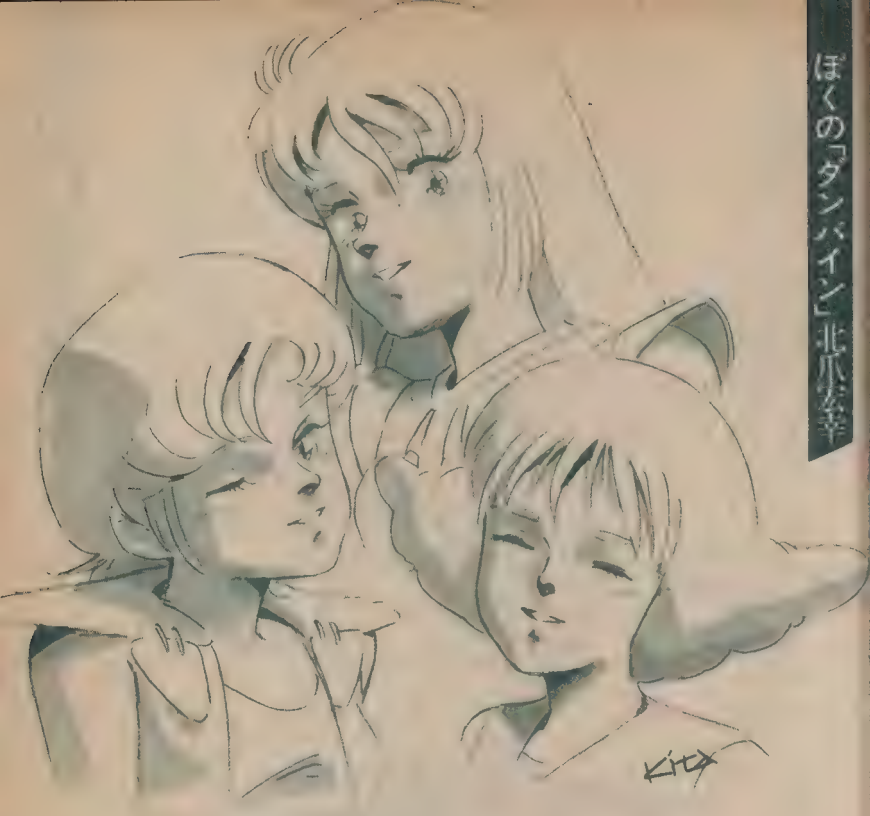
坂本　火炎を出す機関が誘発して爆発するのかね。積んでる弾丸とか。

矢木　単純に爆発する感じとは。

大森　違えたほうがいいとは思いますね。

出渕　ぼくなんか例えば、よくコックピットが割れるシーンがありますよね。人がムキ出しになってる。それをオーラ・バトラーが兵士をわしづかみにして、つかみ出す。

出渕　するといままで動いていたオーラ・バトラーが急にただの人形みたいになって、ガクッと下に落ちてくるなんて描写が見たかったんですよね。
池田　「仮面ライダー」などの影響なのかなあ。デザインの段階で内燃機関なんて考える？
出渕　考えないです。オーラ・バトラーには内燃機関なんて入らないですよ。中に人間はのってるし。そんな超技術があの時代にあるのかっていう感じになりますね。
坂本　オーラ・バトラーを動かすのは、不思議な力、オーラ力ですね。
遠藤　あと、筋肉なんでしょ、たしか。
出渕　そう、マッスルです。1話で説明していましたもんね。
遠藤　オーラ力に連動してるわけだ。
出渕　例えば、オーラ力を利用する意志伝達機構みたいのがあったとして、腕が切られると、少しピクピクとか動いたりするとらしかったと思うんですよね。
大森　オーラ・バトラーは外骨格的なイメージがあるでしょう。だから、甲らが割れると、筋肉の収縮で引っぱられて、つぶれてもいいような気もする。
矢木　支える骨が失われたというわけか。
坂本　カニとかそういう感じね。
遠藤　いま、考えると、いろいろあるんだけどねえ。
出渕　爪なんか使ったときは、おもしろかったんですけど、どうせやるなら、つかみつぶすところまで見せてほしいんです。
大森　ビランビーが、ダンバインの剣を足の爪で受けとめるなんてシーンは、かっこよかったですね。手の爪も伸ばして、ミサイル・ランチャーを押えているわけで、爪を単にとばすだけじゃなくて、もっと伸ばして敵に突きささるなんてイメージも出したらよかったですね。レプラカーンがあのキバでかみついたときなんか、実におもしろかった。
出渕　剣だけにこだわらず、かみついたり、力だけで戦うとか、ロボットというよりも怪獣ぽいイメージの方がよかったのかも知れないですね。
坂本　最初に、オーラ・バトラーの話を聞かされたとき、有機的なデザインだし、構造もそういう感じだし、もっともっとそれらしくしたかったね。最近のビルバインが出てきて、ミサイルがついたり、ちょっと逆の感じで、中途半端なイメージになった感じはありますね。
出渕　あれは指示だったんです。どうもすいません……。
坂本　よくわかります。ただ、もう少し、武器とかに頼るのではなく、やはり接近戦ばかりで行ければとは思うんです。
　ミサイルで何10キロ先からビュ〜ンでは絵になりませんから。やはりあくまで中世の背景で、剣で戦うイメージですよね。
池田　乗っている人間と一体化するという点では、37話の「ハイパー・ジェリル」ですね。巨大化するレプラカーンとジェリルのオーラ力の爆発の描写は、実にすごかった。
坂本　あれは大森くんに聞いてください。彼の原画ですから。
池田　巨大化シーンですか、原画は？
大森　Bパートは、ほとんどやりました。

ぼくの「ダンバイン」北爪宏幸

ダンバイン、こんな可愛い少女たちが登場するのに……
もっと楽しい話だと、よかったですね。

あれはたいへんでした

池田　枚数もあの回は、大変だったんじゃありませんか？

遠藤　それが意外とかかってない。

大森　4700ぐらいですか……。

池田　ええ!?　そんなもんですか!?

大森　北爪くんがAパートで押さえてくれたもんですから(笑)。

遠藤　あの回は、いい出来だったね。

池田　実はあの回は、音がないラッシュ・フィルムで見たんですが、ともかく感動しました。あのパワーこそ、「ダンバイン」だと思います。

大森　そういっていただけるとうれしいですね……。

池田　ぼくらSFファンは、ああいう超能力の爆発というのに対して、渇望のようなものがあるんです。本当に感激しました。

ぼくの「ダンバイン」出渕裕

黒騎士ってさぁ、名前はそーでも
やっぱりミチアでありキシなんだよね。
中世の黒騎士（ブラックナイト）じゃない訳‥‥
もっとそれっぽい新鮮さ欲しかったナァ…
Buchi

●フェラリオの黒騎士くんとノタノタズワァース

大森　37話の「ハイパー・ジェリル」の絵コンテと演出をやっている今川泰宏さんは若手の人なんですけど、派手な作品が好きな人で、ぼくも派手なのが大好きなので、一緒にやりましょうとやりました。

実は33話もやっていたので、スケジュール的にはきつかったんですが、制作サイドにお願いして、無理矢理やらせてもらったんです。今川さんとは海がオーラ・バトラーの戦いのオーラ力で割れてしまう25話の「共同戦線」も一緒にやったんですが、気があうんですよね。

バイストン・ウェル話題あれこれ

池田　湖川さんには、今回チャム・ファウのイラストを表紙で描いてもらったんです

が、非常にチャム・ファウはお気に入りみたいですね。

坂本　例えば「ザブングル」の中にチルがいたように、悲惨な話もチャムがいるとホッとするというところはありますよね。

ラブストーリーがあったりとか、悲しい物語があっても、チャムだけはいつもそういうところから離してあるというのは、あるかも知れませんね。

出渕　キャラのアゴや鼻の下にベタの影がつきますよね。あれは地上に出るとなくなるんですか？

遠藤　最初はそうしたんだけど、やっぱりキャラのイメージが崩れちゃうとすぐにまたつけるようになりました。

北爪　最初に地上へ出たときは、1回だけ取ったんだけど、あのときはふたりだったし、全員がドサッと出た今回は、世界観がなくなるので、つけるようになりましたね。

池田　鼻の下のあの黒っていうのは、あれどういう効果なんですか？

北爪　影です、あれは。

大森　バイストン・ウェルは光が強いということなんです。

坂本　光がほとんど真上からしか来てないという設定があるんです。

矢木　ハワイなんか行ったときの写真を見ると、ぼくは行ったことないですけど（一同笑）、影はまっ黒なんです。それで塗りつぶすんです。

遠藤　世界観を出す一種の特徴づけですね。

大森　あれは作品のカラーにあってますね。

池田　そうですね。特にマーベルとか、ジェリルとか、ショウとか、あれがないとさびしい気がしますものね。

こんなアニメをやってみたいですね。

池田　「ダンバイン」の話でも。そうでなくてもいいんですが、こんなアニメをやってみたいということはありますか？

坂本　ただただおもしろい、存分に動く粋（いき）なギャグ・アニメ、それに大人のためのポルノチックな表現も含め、見る側にイメージを語りかける感覚的なイメージ・アニメの両方をやりたいですね。

遠藤　考えオチはニガ手な方でとんとんとテンポのある流れの中で、あまり考えずに泣いたり笑ったりするアニメがいいなあ。

矢木　いまのところ、とにかく巨大ロボットの出てこないドンパチ・アニメをやりたいと思いますね（笑）。

大森　「ダンバイン」の後の新シリーズもあるんですが、ともかくは「ダンバイン」の第47話に全力を傾注したいと思います。

北爪　理屈ぬきで楽しめる、そんなアニメを作ってゆきたいです。

出渕　ぼくは、じっくりと腰を落ちつけて、1本の作品世界に深くかかわるような仕事をしてみたいですね。演出やキャラにも興味があるものですから。

池田　「ダンバイン」もいよいよクライマックス。チャム・ファウではありませんが、「必殺オーラ斬り〜」と鉛筆をにぎってがんばってください。本日はどうもありがとうございました。

※

ダンバインは、人間の物語である……

「聖戦士ダンバイン」を見ていると、その人間ドラマに戦慄(せんりつ)してしまう。

第36話「敵はゲア・ガリング」(脚本・富田祐弘、絵コンテ・演出・鈴木行)で、キーンは戦場の中へ突出する。心を通わせたトルストールが死に、悲しみに沈むエレを見て、そしてショウとマーベルを見、チャムがいつもショウと一緒なのに気づき、ニーが子どもとしてしか自分を見ていないのに気づき、キーンの心は破れんばかりだったのだ。ボチューンのコックピットの中で叫びつづけているキーン。

「私なんか。私なんか。死んだってだれも悲しみはしないのよ!!」

援護に出るマーベルのダンバイン、ショウのビルバイン。しかし、戦場の中でキーンへの援護は間に合いそうにない!

被弾し、爆発を開始するボチューン。悲しみの絶頂の中で、キーンも戦場に散るのか!? コックピットが飛び、みるみる高度が下がっていく……。

そのとき、墜落するボチューンの脇に、ツバメのように飛来するグライ・ウイングのシュット。乗っているのは、ニーだ!

「キーン。飛ぶんだ!!」

キーンは、ボチューンのコックピットから空中のニーへと飛びついていく……。

しっかりと、ニーの背に抱きつき、肩に顔をうずめるキーン。〝ニーが、ニーが私を迎えに来てくれた……〟ニーは彼の身体を抱きしめるキーンの、心のふるえを、さびしさを抱きしめ、大空を切りさいてふたりの心が飛翔していく。

こんな心のふれあいを、人の心の叫びを、さびしさを、喜びを「聖戦士ダンバイン」は、全編に展開しているのだ。

ショウとチャムにしても、チャムがショウの顔に抱きつくのは、まさに全身でチャムがショウを抱きしめているのだというあ・・・の演出(顔を抱くチャムを見つめるショウの視点のやさしさ♥)。たしかに、地上に出て、壮絶な戦闘アニメとしても、「ダンバイン」は傑出しようとしている。しかし、見てると人間のほうが断然イイ。この作品を戦闘アニメとしてしか考えない輩(やから)には、上の写真のチャムのように、オーラ力で対抗しよう。

(池田)

■チャム伝言板の使い方　きみもチャムになりきりっこしてセリフを書いて友だちに渡そう。

Filmography episode 1〜31

話数	放映日	タイトル	脚本	演出 (ストーリーボード)	作画監督 (作画監修)	原画
1	2/5	聖戦士たち	斧谷　稔	鈴木　行 (斧谷　稔)	湖川友謙	坂本英明、遠藤栄一、大森英敏、北爪宏幸 矢木正之、恩田尚之、詫　祐二
2	2/12	ギブンの館	富田　祐弘	関田　修 (斧谷　稔)	湖川友謙	湖川友謙、秋野洋一
3	2/19	ラース・ワウの脱出	渡辺　由自	井内　秀治	佐々門信芳	佐々門信芳、山田政紀
4	2/26	リムルの苦難	渡辺　由自	今川　泰宏	遠藤　栄一	遠藤栄一、坂本英明、大森秀敏、北爪宏幸 矢木正之、恩田尚之、詫　祐二
5	3/5	キーン危うし	富田　祐弘	鈴木　行	佐久間信計	佐久間信計、さくましげこ、うちだよりひさ
6	3/12	月の森の惨劇	富田　祐弘	関田　修	篠田　章	外記康義、大川弘義 宮崎絹江、桑原美佐
7	3/19	開戦前夜	渡辺　由自	菊池　一仁	佐々門信芳	佐々門信芳
8	3/26	再び、ラース・ワウ	渡辺　由自	井内　秀治	金山　明博	山田政紀、中村誠、佐藤道雄
9	4/2	天と地と	富田　祐弘	今川　泰宏	坂本　三郎	坂本三郎、福島喜晴 大島城次、杉山東夜美
10	4/9	父と子	富田　祐弘	鈴木　行	遠藤栄一、大森秀敏 (湖川友謙)	遠藤栄一、坂本英明、大森英敏 矢木正之、湖川友謙
11	4/16	キロン城攻防	渡辺　由自	関田　修 (斧谷　稔)	佐々門信芳	佐々門信芳
12	4/23	ガラリアの追跡	渡辺　由自	菊池　一仁	佐久間信計	佐久間信計、内田よりひさ、 さくましげ子、山田政紀、外記康義
13	4/30	トッド激進	富田　祐弘	今川　泰宏	金山　明博	山田政紀、大川弘義 桑原美佐、福島喜晴
14	5/7	エルフ城攻略戦	富田　祐弘	今川　泰宏	金山　明博	山田正妃、福島喜晴 大川弘義、桑原美佐
15	5/14	フラオン動かず	渡辺　由自	鈴木　行	遠藤　栄一 大森　秀敏	遠藤栄一、坂本英明 大森秀敏、矢木正之
16	5/21	東京上空	渡辺　由自	関田　修	佐々門信芳	佐々門信芳
17	5/28	地上人たち	渡辺　由自	川瀬　敏文 (菊池一次)	坂本　三郎	坂本三郎、大島城二 佐藤道雄、内田よりひさ
18	6/11	閃光のガラリア	渡辺　由自	井内　秀治	秋野洋一、矢木正之 大森英敏、遠藤栄一	秋野洋一、矢木正之、大森英敏 遠藤栄一、坂本英明
19	6/18	聖戦士ショウ	富田　祐弘	今川　泰宏	坂本英明、大森英敏 (湖川友謙)	坂本英明、大森英敏
20	6/25	バーンの逆襲	富田　祐弘	鈴木　行	篠田　章	山田政紀、平田一清 大川弘義、森田幹夫
21	7/2	逃亡者リムル	渡辺　由自	関田　修 (今川泰宏)	佐々門信芳	佐々門信芳
22	7/9	戦士リムル・ルフト	渡辺　由自	川瀬　敏文	佐久間信計	佐久間信計、さくましげ子 外記康義
23	7/16	ミュージィーの追撃	富田　祐弘	井内　秀治 (川手浩二)	遠藤栄一、矢木正之 北爪宏幸(湖川友謙)	遠藤栄一、矢木正之 北爪宏幸、寺東克己
24	7/23	強襲対強襲	富田　祐弘	鈴木　行	金山　明博	佐藤道雄、内田順久、小林利克 秋野洋一、杉山東夜美
25	7/30	共同戦線	渡辺　由自	今川　泰宏	坂本英明、大森英敏 (湖川友謙)	大森英敏、坂本英明、所智一
26	8/6	エレの霊力	渡辺　由自	関田　修 (関田修、井内秀治)	佐々門信芳	佐々門信芳、大島城次
27	8/13	赤い嵐の女王	富田　祐弘	井内　秀治 (川手浩次)	坂本　三郎	坂本三郎、外記康義 山田政紀、小林利充
28	8/20	ゴラオンの発進	渡辺　由自	川手　浩次 (今川泰宏)	遠藤栄一、矢木正之 (湖川友謙)	遠藤栄一、矢木正之、北爪宏幸 詫　祐二、寺東克己
29	8/27	ビルバイン出現	富田　祐弘	鈴木　行	大森英敏、坂本英明 (湖川友謙)	大森英敏、坂本英明、所智一
30	9/3	シルキーの脱出	渡辺　由自	関田　修	佐々門信芳	佐々門信芳
31	9/10	黒騎士の前兆	富田　祐弘	井内　秀治	金山　明博	大島城二、外記康義、佐久間信計 秋野洋一、山田政紀、さくましげ子

Filmography episode 32〜49

話数	放映日	タイトル	脚本	演出(ストーリーボード)	作画監督(作画監修)	原画
32	9/17	浮上	富田祐弘	今川泰宏(今川泰宏、斧谷稔)	坂本三郎	坂本三郎、山田政妃、杉山東夜美 外記康義、小林利充
33	9/24	マシン展開	渡辺由自	川手浩次(川手浩次、斧谷稔)	大森英敏、北爪宏幸(湖川友謙)	大森秀敏、北爪宏幸 寺東克己、所智一
34	10/1	オーラ・バリアー	渡辺由自	関田修	遠藤栄一、坂本英明 矢木正之(湖川友謙)	遠藤栄一、坂本英明 矢木正之、鈍 祐二
35	10/8	灼熱のゴラオン	富田祐弘	井内秀治	佐々門信芳	佐々門信芳、大島城二
36	10/15	敵はゲア・ガリング	富田祐弘	鈴木行	金山明博	佐々門信芳、山田正妃 秋野洋一、大島城次
37	10/22	ハイパー・ジェリル	渡辺由自	今川泰宏	大森英敏、北爪宏幸(湖川友謙)	大森英敏、北爪宏幸、所 智一 窪岡俊之、大西清美
38	10/29	時限爆弾	富田祐弘	川手浩次	坂本三郎	坂本三郎、外記康義、山田政妃 小林利充、杉山東夜美
39	11/5	ビショットの人質	渡辺由自	関田修	佐々門信芳	
40	11/12	パリ炎上	渡辺由自	井内秀治	遠藤栄一、坂本英明 矢木正之	
41	11/19	ヨーロッパ戦線	富田祐弘	今川泰宏	金山明博	
42	11/26	地上人の反乱	渡辺由自	鈴木行	大森英敏	
43	12/3	ハイパー・ショウ	富田祐弘	川手浩次	佐々門信芳	
44	12/10	グラン・アタック	富田祐弘	関田修	坂本三郎	
45	12/17	ビョン・ザ・トッド	渡辺由自	井内秀治		
46	12/24	リモコン作戦	渡辺由自	今川泰宏	金山明博	
47	1/7	ドレイク・ルフト	富田祐弘	鈴木行		
48	1/14	クロス・ファイト	渡辺由自	川手浩次	佐々門信芳	
49	1/21		富田祐弘	関田修	坂本三郎	

※リスト中空白部分は、10月末現在未定の物です。放映を見て、書きこんで下さい。

●「聖戦士ダンバイン」スタッフ●企画／日本サンライズ　原作／富野由悠季・矢立肇　キャラクター・デザイン／湖川友謙　メカニカル・デザイン／宮武一貴　メカニカル・ゲスト・デザイン／出渕裕　音楽／坪能克裕　作画監督チーフ／湖川友謙　美術／池田繁美　撮影監督／斉藤秋男　録音監督／藤野貞義　総監督／富野由悠季　プロデューサー／森山滓　大西邦明　中川宏徳

●目次

表紙のことば　ショウが大すきなチャム。夢の中ぐらい、デートさせてあげたい。うれしそうな顔。湖川さんのやさしさに感謝 ♥

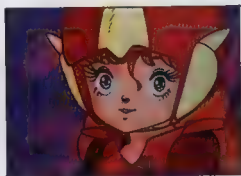
●STAFF

構成 …… 池田憲章　中村学

レイアウト …… 庄内真

表紙イラスト …… 湖川友謙

協力 …… 大月俊倫

Marvel
Frozen

AURA BATTLER SELECTION &

チャム伝言板

使い方は50ページ

EYE CATCH COLLECTION

昭和58年12月10日発行(毎月1回10日発行)第6巻第12号　昭和57年6月15日国鉄首都特別扱承認雑誌第6262号

聖戦士
Aura Battler
ダンバイン